

令和元年台風19号被害への対応状況等について（1月16日12:00現在）

台風19号で被害を受けた各地で情報共有会議が開催され、活動状況や課題などを共有し、解決に向けた連携が行われていましたが、復旧・復興の状況により、回数や場所などの体制の見直しも行われています。福島県いわき市、宮城県丸森町に加え、福島県郡山市でも市町域の情報共有会議が行われます。JVOADからもスタッフが参加し、会議の中で共有された課題に対して関係団体と解決を図っています。本日12:00時点で把握した状況についてご報告します。

○最新の被害状況（1月10日10時現在 総務省消防庁資料）

<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/taihuu19gou64.pdf>

人的被害：死者99名（うち災害関連死2名）、行方不明者3名、重傷者38名、軽傷者342名

住家被害：全壊3,225棟、半壊28,811棟、一部損壊31,735棟、床上浸水7,776棟、床下浸水22,592棟

*10月25日の大雨による被害も含む

*今後の罹災証明書発行に伴い、数字は変動する見込みです

○情報共有会議の開催

JVOADのホームページでも各地の情報共有会議の開催予定一覧を定期的に更新しているので、あわせてご確認ください。

○現地の状況

①東北方面（宮城県・福島県）

- ・宮城県丸森町で支え合いセンターが設置、今後、生活支援相談員による活動が予定されている
- ・複数のNPO/NGOが家電支援を実施している
- ・東日本大震災時の仮設（石巻市）で使用していた畳を、寒さ対策として希望者に渡していく
- ・現在、福島県いわき市の避難所は1か所（内郷コミュニティセンター）、30世帯、68名が避難中
- ・在宅避難者も多く、福島県いわき市ではコミュニティ支援としてサロンがいくつか実施されている、公費解体など制度に関する質問なども多く出ているため、情報会議などを通して、弁護士会との連携も進められている

②北関東（栃木県・茨城県）

- ・栃木県の情報共有会議については体制の見直しを行っているが、各地で住宅再建の講習会なども実施しながら対応している
- ・茨城県常陸大宮市では、大工待ちの住民が多いため、サロンなどのコミュニティ支援を行ってほしいという声が上がっている
- ・茨城県大子町では、生活支援相談員の制度を活用していく予定

③長野県

- ・「長野写真洗浄プロジェクト」が始まっている
- ・復興支援のための新たな基金の設立を検討している

- ・長野県内地域支え合いセンターが設置、長野市、佐久保町、飯山市で生活支援相談員が配置予定、他にもいくつか準備をしている地域がある
- ・1月13日に「明日に向かって踏み出す集い」が実施され、約1000人が参加
震災後初めて再会した人もいるなど、楽しむ様子が見られたが、今後への不安や引っ越しに伴い出かけることが少なくなったという声なども聞かれている

④千葉県

- ・地元NPOを中心に「千葉南部災害支援センター」が設置され、社会福祉協議会や技術系支援団体と連携しながら長期的にブルーシートの張り直しや倒木などの依頼に対応していくため、引き続き、講習会の開催に向けた調整をJVOADもサポートしながら行っている

○災害ボランティアセンター

複数の市町村で、引き続きボランティアセンターが開設

開設状況については、全国社会福祉協議会 被災地支援・ボランティア情報をご覧ください

宮城県丸森町以外は、事前登録制となっているため活動希望の際にはご確認ください

URL：<https://www.saigaivc.com/>

○今後について

JVOADとして、長野県にスタッフを常駐、その他の地域については出張ベースで対応していきます。

地域支え合いセンターの設置などもされ始めていることから、JVOADとしても、地元団体への引継ぎも見据えながら、支援の「モレ・ムラ」のないように各関係団体、機関と連携して支援にあたりたいと思います。